

聖書箇所:マタイの福音書27章45~56節

「十字架―見捨てられた者の友―」

【1】 昼間の暗闇

- ・ 十字架刑の残酷さ：孤独の中での死
- ・ 昼に全地が闇に包まれる異常事態
 - ―創造の秩序：光と闇を分け、光を昼と名づけ、闇を夜と名づけられた
 - ―神の裁きの象徴(参照アエ 8:9; 出エ 10:21~23)

【2】 見捨てられた者の叫び

- ・ ゴルゴタ―帯に響いたイエスの「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」
 - ―人々は「エリヤ」を呼んでいると連想
 - ―当時の人々は「預言者エリヤは義人を救い出す」と考えていた
 - ―叫んでも救い出されないのなら義人でも「神の子」でもないという理解
- ・ 現れなかった神からの助け
 - ―神に見捨てられた者として裁かれたイエス

【3】 暗闇の中で神と出会う

- ・ 暗闇のもう一つの側面
 - ―神の御住まい
 - ―神の臨在の現れ(参照出エ 20:18~21; 1列王 8:12; 詩篇 97:2)
- ・ 「わが神 わが神 どうして私をお見捨てになったのですか」 (詩篇 22:1)
 - ―詩篇 22 篇「苦難の僕」の構成
 - 前半 (1~21a 節) : 神に見捨てられた者の苦しみ、嘆き叫び
 - 後半 (21b~31 節) : 神の臨在を讃える賛歌
- ・ 暗闇の中でのイエスの叫び
 - ―絶望の叫びではなかった
 - ―十字架は神から受けた杯であるという自覚からくる叫び(マタイ 26:36~46)
- ・ 百人隊長の信仰告白
 - ―イエスを十字架につけた異邦人
 - ―暗闇の中で神の臨在を覚え、イエスが「神の子」とであると告白

▷ 私たちも最も孤独に思える暗闇の中で、神のご臨在に触れ、私たちの罪のために十字架にかかって死なれたイエスを「神の子」と告白できますように。

